

飯能県税事務所長賞

助け合いのお金

上藤沢中学校 三年 金子 菜穂

「税金」。私は今まで正直、この言葉を聞いて良い印象を受けることはあまりありませんでした。私のような中学生の一番身近にある税はやはり消費税。今から約一年前には税率が八パーセントから十パーセントに引き上げられ不満を持つ人も多くいるようですが、今までは私もそのうちの一人でした。しかし、私は今はもう、税についてそのような考えは持っていません。私の税に対する考え方は、二年前のあるできごとによって大きく変わりました。

二年前の冬。私は中学一年生となり二学期も終わりに近づいていた頃、悲劇が起きました。それは、友達とサッカーをしていた時のこと。不注意から誤って転倒し、左足の靭帯を損傷してしまったのです。頭が真っ白になりました。一カ月後に控えた部活の大会にも出られなくなり、精神的にもとても辛かったことを今でも覚えています。病院にもほぼ毎日行くようになりました。医療費もかさむ一方です。そんな中、私はほぼ毎日払っていたはずの医療費の負担が少ないことに気がつき、母に毎回の医療費はどうしているのかをたずねました。このとき私は初めて、普段私達が払っている税金がこのような医療の現場で治療費としても使われているということを知りました。――そう、私は税金に助けられているのです。言わば税金は、困ったときに私達を助けてくれるスポンサーとも言えるで

しよう。

税金について知識不足だった私は、今まで、なぜ払わなければならぬのだらう。と税金に対してマイナスな考えばかりを持っていましたが、このできごとをきっかけに、税金はなくてはならない存在であることに気がつき、私達の生活をより豊かにしてくれているということを意識して生活するようになっていきました。

税金は国民皆が払うものです。そしてそれらは、私達国民の快適で豊かな生活のためだけでなく、年金、福祉金、医療費などの社会保障にかかるものにも使われています。これらは、国民全員に必要な不可欠なものばかりでなく、困っている人々を支援するためのお金でもあるのです。だからこそ私は今、税金は 〃助け合いのお金〃であり、イヤイヤ払ったり文句を言ったりするのではなく、募金をするときのように少しでも気持ち良く払うべきだと思っています。